

編集 後記

うらかな日差しの鹿児島市で開催された日本公衆衛生学会総会も終わり、季節も冬めいてきました。学会総会では会員の皆様の熱意ある発表に触れることができ、日本の公衆衛生のエネルギーを感じました。その中で、編集委員として会場でよく受けた質問として「この発表は論文になりますか?」というものがありました。

論文、特に原著が満たすべき重要な要件の一つとして科学的な新規性があります。この科学的新規性については、人それぞれ、様々なとらえ方があると思いますが、日本公衆衛生雑誌では「手法、対象、結果、解釈のいずれかで、既出論文にない新しさをもつ、と客観的に判断できる論文」としています (<https://www.jsph.jp/gakkaishi.html> のフローチャートより)。ここで重要なのは「いずれかで」という言葉で、手法、対象、結果、解釈の4つのポイント「すべてに」新規性を求めているわけではありません。編集委員会では、皆様からの投稿論文が原著としての要件を満たしているか、4つのポイントを中心にチェックしていますので、投稿の際のカバーレターに「どのポイントに新規性があるか」を書いていただくと、審査が円滑に進むと思っています。

第64巻11号には、原著3編、資料1編が掲載されました。要介護度の原因疾病を探索した論文では主治医意見書に基づく疾患名を分類した点が、メディカルフィットネス利用経験者を対象に性格特性と運動継続との関連を検討した論文ではメディカルフィットネスという新しい対象に焦点をあてたという点が、科学的な新規性であるといえます。全国自治体病院を対象とした医療通訳者ニーズ調査の論文、野菜・果物栽培活動と健康関連要因との関連を見た論文では、調査テーマに新規性があるといえます。最後にくりかえしになりますが、当編集委員会では「手法、対象、結果、解釈のいずれかで、既出論文にない新しさをもつ、と客観的に判断できる論文」の投稿をお待ちしています。皆様ふるってご投稿いただきますようお願い申し上げます。(村上義孝)

次号予告 (第64巻・第12号)

原 著

日本在住外国人の死亡率：示唆されたヘルシー・マイグランド効果……………小堀栄子，他
男性交代勤務労働者の飲酒行動の特徴と問題飲酒に関連する要因の検討……………山田知佳，他

公衆衛生活動報告

ひきこもり当事者によるピア活動を目的としたひきこもりサポーター養成派遣事業：「堺市ユース・ピアサポーター」養成派遣事業の取り組みについて……………岩田光宏

資 料

地方自治体の飲食店・惣菜店等における食環境整備事業に関する現状と課題：保健所の行政栄養士への質問紙調査より……………坂口景子，他